

# 憲法問題

# 違ひクリッキ

## 成宮候補 9条を無傷で守らに

参院選の公示（十二日）を前に、参院京都選挙区の各党候補による公開討論が行われています。

六月二十七日に行われた

経済人クラブ主催討論会で

は、憲法が焦点の一つとな

り、自民党・西田昌司候補

が現憲法否定の持論を繰り

返し、「明治憲法にもどっ

て、そこから、今必要なも

のは何かとなってくる」

と、明治憲法を下敷きにして憲法改定を主張しました。

公開討論会に参加したの

は、都合によりビデオ参加

となった日本共産党的成宮

まり子候補と自民、民主、

諸派の四候補。

憲法改定をめぐって、諸

派候補が「憲法は破棄・明

治欽定（きんてい）憲法の連続性を持った正当性を持つた憲法を」と主張。続

## 自民 明治憲法に戻れ／民主 改正点多々ある

## 参院京都選挙区

く西田氏は「基本的考え方は私も同じ」と賛意を表明。「もともとこの憲法自身が憲法としての資格があるのか」「憲法だという論理的な根拠はほとんどない」と現憲法を否定。

明治憲法にもどって、そなたたちとどういう経済関係、協力関係を結んでいく

から、今現在、必要なものは何かといふことにならぬ」と述べました。

成宮候補は「私は母親として何よりも、子どもの未

来に戦争をする国だけはつくってはいけない。憲法九条を無傷で子どもの世代に渡したい」と反戦平和の立場から現憲法を守ることを表明しました。

改憲の焦点は九条。九

条を変えて、海外でアメリ

【一回目の発言】  
そもそも、今の日本には憲法が、憲法だという論理的なほとんど根拠はない。ただ、じゃあ、どうするのか。憲法廢棄というも、廢棄すると元の憲法が出てくるわけですから、実は明治憲法にもどって、そこから、今現在、必要なものは何かと

いう体勢になってくるのか

など思います。

【二回目の発言】

本来、制定の過程も含めて、どういう歴史的経過でこの憲法があるのか、また明治憲法ができた過程もどういうことであったのかと

い、歴史的事実を国民に

きちちらと説明する、そのなかで、明治の憲法と今の憲法と根本的な違い

を明確にし、國民がみんな理解する、説明する、それがまず第一の政治家の使命だと思っています。

いがあるんだということ

分かれば、自動的に憲法の話は、方向性が収斂（しゆうれん）していくわけですか。ところが今一番問題は、この肝心のことを議論せず、目の前の九条と自衛隊の関係をどうするかばかりに終始しますと、憲法の本当の意味が分からなくなる。憲法というのは、もともとコンステイチヨーション、つまり国体、国柄、国の歴史という意味ですけれども、そういう意味でつくってあるわけですから、要はその歴史的なものがいいものは、日本人にとって憲法たりえないじゃないかという当たり前のところを、國民がみんな理解する、説明する、それがまず第一の政治家の使命だと思っています。